

学校かわらばん

地域と結ぶ広報誌

風 によって

令和6年7月18日

第117号(1)

稲沢市立丸甲小学校

微差が大差を生む

先日、ある研修会で、元プロ野球選手の工藤公康さんの講演を聴く機会がありました。名選手、そして名監督として数々の偉業を成し遂げた背景にどんな考え方や取組があったかについて教えていただきました。その中で「凡事徹底の継続。微差が大差を生む」というお話がありました。「毎日の小さな取組の積み重ねが未来を大きく左右する」という考えの下、自分自身やチームの成長のための工夫や努力を地道に続けてきたということです。

令和6年度は、新入生16名を迎え、全校児童114名でのスタートとなります。学校においては、子どもたちのよりよい成長を願い、授業や教育活動の工夫・改善に日々努めております。たとえそれが小さな一歩でも積み重ねれば大きな変化を生み出すことを信じ、よりよい学校づくりにこれからも取り組んでいきたいと思っております。保護者・地域の皆様のご理解・ご協力をこれからもよろしくお願いいたします。

1 学期の様子

<入学式 4/4>

新入生16名が布智っ子に仲間入りしました。これから勉強や運動と一緒にがんばりましょう。



<新入生を迎える会 5/10>

新1年生に丸甲小のよさを知ってもらおうと各学年が、工夫をこらして「おもてなし」。1年生へのインタビューや手作りメダルのプレゼント、クイズや劇を使った学校紹介など、全校で楽しめるいい会となりました。



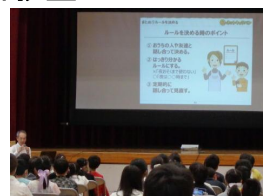
<修学旅行 5/24~25>

1泊2日の2日間、穏やかでいい天候に恵まれて、奈良・京都見学や友禅染体験、買い物などをしっかり満喫することができました。古都の歴史を肌で感じながら、様々な学びとともに、いい思い出の1ページを増やすことができました。



<授業公開・スマホ・ケータイ教室 6/1>

保護者や学校運営委員の方に授業を参観していただきました。また、3~6年生については、NTTより講師を招き、保護者も交えてスマホ・ケータイ教室を行いました。講師の方からは、いじめや犯罪などネットトラブルに巻き込まれる危険性や、それを認識した上での安全な使い方を事例を交えて教えていただきました。この教室がネットとのつきあい方を親子で考えるよいきっかけとなれば幸いです。



<福祉実践教室 6/9>

稲沢市社会福祉協議会より講師を招き、3~5年生を対象に福祉実践教室を実施しました。3年は手話、4年は車いす、5年は点字の体験を通し、「福祉」とは何か、そのために自分は何ができるか・すべきかを考えるよい機会となりました。



◇「学校かわらばん」は本校HPにも掲載します。HPではカラー版でご覧いただけます。

くなかよし遠足 6/14

全校で南知多ビーチランドに行きました。高学年のリーダーシップの下、縦割り班で水族館内を回りました。水槽を泳ぐ魚やイルカショーの観賞、アザラシやペンギンとのふれあい体験を楽しみながら、学年を超えた絆を深めました。



く学校保健委員会 6/17

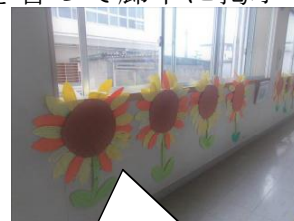
「からだスイッチ」の演題で、ブラッシュアップ所属ランニングコーチを務める安藤嘉則先生に講演いただきました。日頃動かしていない筋肉や関節を意識して動かすことを「からだスイッチを入れる」と称して、室内でも椅子に座ったままでも、いつでもどこでもできる手軽な運動を教えてくださいました。簡単でも毎日続けることで、柔軟



性や筋力の向上に大きな効果が出るそうです。ぜひ積極的に取り組んでいきたいと思っています。

くいいところ見つけキャンペーン 6/24~7/15

「全校一人一人のいいところを見つけて、みんながHappy&Smileになれる学校にしたい」と考え、児童会が「すてきな布智っ子さん、見つけようキャンペーン」を企画しました。花びら型のカードにお互いに見つけたいいところを書き合って廊下に掲示しました。キャンペーン中、日増しに花びらの数も増え、キャンペーン最終日には、満開の花が咲きました。



廊下に咲いたたくさんの花。

この花びら1枚1枚に、「いつも遊んでくれてありがとう」「係の仕事を手伝ってくれてありがとう」「本をいっぱい読んでいてすごいね」「いつも元気で明るくて、自分も元気になれます」など、友達のいいところや日頃の感謝の気持ちが書かれています。

第1回学校運営協議会報告

◇ 令和6年6月1日(土) 14:00~(午前中:授業公開参観)

「会長・副会長の選出」「学校経営方針」などについて審議・承認された後、意見交換を行い、以下のような話し合いがありました。

- ・ 丸甲小がキャリア教育に力を入れているのは嬉しい。キャリア教育とは、社会的自立(きまりを守ってしっかりした大人に)と社会的自立(自分に合ったやりがいのある仕事を見つける)を図ることだと考える。挨拶運動はそのための大切な取組の一つだと思う。
- ・ 体育振興会としては、ドッチビー大会や地区運動会、ウォークラリーなどのスポーツを通して、自己肯定感を高め、キャリア教育につなげたい。
- ・ 役割を与え、成功体験をもたせ、自信をもたせる取組を積極的に進めてほしい。
- ・ 授業中、発言する時は、立ってから椅子をきちんと引くことが1年生からしっかり身についており、学校の文化になっていると感じる。今後も続けてほしい。
- ・ 「ボランティア」について、子どもたちにその意味などを教えてほしい。
- ・ 教室や廊下に絵や写真が掲示してあり、学校が明るく感じられてよい。
- ・ 教師の声がはっきりと大きな声で聞こえ、子どもたちも大きな声で話すことができていた。教師がお手本となることで子どもたちも育つと感じる。
- ・ 保護者として見守り隊に感謝している。見守り隊と子どもたちとのふれあいの時間や場があるとよい。(丸甲地区の昔の話や戦争の話を聞く機会をもつなど)
- ・ 授業の中にグループでの話し合いの場を設け、お互いの考えを聞き合い、まとめたのがよい。人との考え方の違いを知ることとはとても大事。将来、世代の違う人と関わる時にも役立つ。
- ・ 見守り隊として、朝、挨拶を子どもたちと必ずするようにしている。子どもたちからも大抵は挨拶が返ってくる。サラリーマンの経験から挨拶の必要性は強く感じている。仕事の力をつける上でも挨拶は基本であると思う。
- ・ いざという時の防災倉庫の活用や避難所開設など、学校と地域の連携を深めていく必要がある。
- ・ 災害時の学校と地域の連携について、いざという時のために、地域の防災組織の窓口はどこになるのか確認したい。